新学習指導要領の主旨を生かした授業づくり

小学校国語科

1　改訂の趣旨

○　言語の教育としての立場を一層重視
○　子どもたちの発達段階を踏まえた学習の系統性を重視
○　生涯にわたって古典に親しむ態度を育成する指導を重視

2　改訂の要点

（１）教科の目標（現状維持）

> 国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力及び言語感覚を養い，国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

（２）内容の構成

３領域と〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に改めている。これまでは内容の取扱いに示していた言語活動例を内容に位置付け，再構成している。

３領域と１事項の内容（第３学年及び第４学年のみを示す）は，次ページ参照。

ア　学習過程の明確化

自ら学び，課題を解決していく能力の育成を重視し，学習過程全体が分かるように内容を構成している。

イ　言語活動の充実

各領域においては，内容の中に社会生活に必要とされる記録，説明，報告，紹介，鑑賞，討論などの言語活動を具体的に例示している。

ウ　学習の系統性の重視

国語科の指導内容は，系統的，段階的に上の学年につながっていくとともに，螺旋的，反復的に繰り返しながら学習し，能力の定着を図ることを基本としている。そのため，児童の実態に応じ，各領域の指導事項及び言語活動例，さらには〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕を関連付けながら，重点を置くべき指導内容を明確にし，その系統化を図っている。

エ　伝統的な言語文化に関する指導の重視

創造と継承を繰り返しながら形成されてきた伝統的な言語文化に親しみ，継承し，新たな創造へとつないでいくことができるように内容を構成している。

オ　読書活動の充実

読書の指導については，目的に応じて本や文章などを選んで読んだり，それらを活用して自分の考えを記述したりすることを重視して改善を図っている。

カ　文字指導の内容の改善

ローマ字の指導については，情報機器の活用や他の学習活動等との関連を考慮し，従前の第４学年から第３学年に移行している。

3　新学習指導要領を踏まえた授業づくり

（１）自分の考えをもち，それを表現する授業づくり

○　「何のために読むのか」という「めあて」を明確にして読み，読み取った内容についての思いや考えを表現する場をより多く設けていく。

（２）考えることの楽しさを味わう体験の充実

○　学習課題の設定の仕方や，読み深めていくための方法を具体的に示しながら，考えることの楽しさを実感できる授業を構成する。

（３）学んだことが使える力を育てることを重視

○　対話や説明，報告などの言語活動を行うときに，日常生活での活用場面を想定しながら学習できる展開を工夫する。

4　移行措置について

平成22年度の第３学年では，〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(1)ウ(ア)に規定する事項（ローマ字）を全ての学校で先行実施する。

〔資料〕内容の改善とポイント　　（第３学年及び第４学年のみを示す）

「Ａ　話すこと・聞くこと」の指導事項		言語活動例	ポイント解説
話題設定や取材	ア　関心あることなどから話題を決め，必要な事柄について調べ，要点をメモすること。	ア　やたいり　しと述こ　真っしす　明し聞た　話まをる　写取話り　説ををべ　でを見す　の告ら述　体え意り　事報れを。全考，た　来のそ見と。級てりっ　出査，意こ学った合　調りてす　合めべと。図どこりと。　イ　ウ　やらを聞　表かと，　なたたる	会割話に一れをを設す　う司役，模童そ割験をに要。　合，のし規児が役経会う重　しは案解のて人のす機よと　話で提理いじ一れたるこ　○とやを合応人ぞ果すける
話すこと	イ　相手や目的に応じて，理由や事例などを挙げながら筋道を立て，丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。 ウ　相手を見たり，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意したりして話すこと。		
聞くこと	エ　話の中心に気を付けて聞き，質問をしたり感想を述べたりすること。		
話し合うこと	オ　お互いの考えの共通点や相違点を考え，司会や提案などの役割を果たしながら，進行に沿って話し合うこと。		

「Ｂ　書くこと」の指導事項		言語活動例	ポイント解説
課題設定や取材	ア　関心のあることなどから書くことを決め，相手や目的に応じて，書く上で必要な事柄を調べること。	ア　想をっい　こ告た書。を説を　，どく書　た報いにと料，ど　となつを　せ状紙　なこ詩物こ。っ，書聞こ資いな　ことを語と思てを新るた使章　近た，，るにべ章級すしに文　身しにり，問調文学り集的ると。に合案の　像基たりす疑をる，た収果すくこ。目的状なこ。　イ　とすりい　ウ　効明書　エ　依礼書　て，を　わ内手　ど　こ	，～どこてかる　はア，としのす　で項にな意るに切。　敵事基う注す確が大　推導をよに敵明と　○指エのろ推をこ
構成	イ　文章全体における段階の役割を理解し，自分の考えが明確になるように，段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。		
記述	ウ　書こうとすることの中心を明確にし，目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。 エ　文章の敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。		
推敲	オ　文章の間違いを正したり，よりよい表現に書き直したりすること。		
交流	カ　書いたものを発表し，書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合うこと。		

「Ｃ　読むこと」の指導事項		言語活動例	ポイント解説
音読	ア　内容の中心や場面の様子がよく分かるように音読すること。	ア　物想と。　みこ　読う　を合　詩べ　や述　語を　感	にす　葉流は言交にすこと　言葉にすこと，　話っ場Ａ聞　○よる「・(1)のイやエさり，せ　オて書て合くウさた果　話くこと」　(1)と関連したり，よ場書の連し効　して合話くこと　指導言葉す言流は，「Ｂ関導と　き交にこやせる的。　と」と指る　カてす　ウ
説明的な文章の解釈	イ　目的に応じて，中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え，文章を読むこと。	イ　文なす　の典用　告事利　報やで　録図読　記，を　章どる　ウ　文めう　のと合　告まみ　報で読　や鑑ん　記をもと。　章たこ　エ　本をす　い説明　しげて　介上　紹りこと。　取る　オ　得だ他を　をんたど　報読しな　情なに関文　必た容本　要めにや　る内の　読むこと。	
文学的な文章の解釈	ウ　場面の移り変わりに注意しながら，登場人物の性格や気持ちの変化，情景などについて，叙述を基に想像して読む。		
自分の考えの形成及び交流	エ　目的や必要に応じて，文章の要点や細かい点に注意しながら読み，文章などを引用したり要約したりすること。 オ　文章を読んで考えたことを，発表し合い，一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。		
目的に応じた読書	カ　目的に応じて，いろいろな本や文章を選んで読むこと。		

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕　（一部）	ポイント解説
ア　伝統的な言語文化に関する事項 (ｱ) 易しい文語調の短歌や俳句について，情景を思い浮かべたり，リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりすること。 (ｲ) 長い間使われてきたことわざや慣用句，故事成語などの意味を知り，使うこと。	○中ズよたりのむこ　五心ムうりし調よとが重要。　・とにに暗て子うに，にに　七し慣音唱　音たれ読し文親す　をリるした語しる